

南風原。

勝連城のお膝元、



勝連南風原エイサー

南風原エイサーは、戦後青年会の結成と同時に、創られました。町内では他とはひと味違ったエイサーです。

パーランクー打ちは、紫の頭巾、黄色の帯、緑のウッチャキ(羽織)を身にまとった「エイサー」の掛け声かけ踊り、女性の踊り手は浴衣を着て、エイサー歌曲に合わせて華麗に踊ります。全体的にゆつくりとしたテンポの多いのが特徴で、優雅さを基本としています。また、昭和57年には勇ましい赤野エイサーの曲を取り入れています。



南風原の獅子舞

(町指定/無形民俗文化財)



字南風原の獅子舞は、1726年に勝連間切地頭代前浜親雲上(カッチンパーマー)という優れた指導者が首里王府から村落移動の許可を取り付け、勝連城の南側傾斜地から現在地に村を移動した頃からムンヌキ(魔除け)として舞われてきた民俗芸能です。

当初は定まった型はなく三線にあわせて舞うだけでしたが、1917年に具志川市田場の上殿内の指導を受け、現在の型が形成されました。舞い始めは、まずワクヤー(おびきだし手)が獅子を挑発しながら入場し、獅子を誘い出したワクヤーはすぐさま退場します。獅子は魔物と思っているワクヤーを取り逃がした不満を爆発させ、激しく舞い狂った後、退場します。

INFORMATION

勝連町の位置

沖縄本島中部の東海岸、中城湾と金武湾の間にある勝連半島の南西半分と浜比嘉島、浮原島、南浮原島、津堅島からなります。



勝連町の歴史

先史時代の遺跡は51カ所確認されています。遺跡は半島側では南側に多く、津堅島では海岸部に点在、浜比嘉島には洞穴内遺跡が多くあります。

勝連町10代目・阿麻和利の時代になると勝連は最盛期を迎えます。徳之島や奄美大島、さらに中国や朝鮮との交流も盛んに行われていましたが、中城城主・護佐丸と争いがおこり、後に中山軍に滅ぼされました。勝連間切は明治41年に市町村制の施行で勝連村となり、1980年に町制に移行しました。

沖縄県勝連町教育委員会

〒904-2392 沖縄県勝連町字平安名3047

TEL.(098)978-2227

このリーフレットは、対米請求権事業により作成しました。

きむたかの文化財シリーズ 3



南風原

HAEBARU



沖縄県勝連町教育委員会



字南風原は、町の南西部、具志川市と境を接した肥沃な地に位置します。昔は勝連村と讃えられ、勝連間切という名称もこれによったもので、いわゆる勝連同村です。社祿台帳に南風原のノロクモイは勝連ノロクモイとあり、南風原の地頭を勝連殿内と称えられていたことなどから考えても、勝連が南風原の古い名称であったことは間違いないと思われれます。阿麻和利の時代に南風原と改称されたと伝えられます。

南風原集落は、勝連城南側傾斜地の元島原に発祥したと伝えられ、一七二六年(尚敬王十四年)に、前浜三良(カッチンパーマー)の努力によって、現在の肥沃な地に移動しました。現在でも、村づくりの大恩人として、南風原の人々は感謝して、報恩社を建てて、祀っています。

